

## パネラー 林秀一氏 (62才)

昭和 38 年～平成 11 年 3 月	市原市中学校教諭
平成 12 年～平成 16 年	古敷谷環境対策委員会 副委員長
平成 16 年～	古敷谷環境対策委員会 委員長
平成 13 年 2 月～	古敷谷里山の会 副会長

平成 13 年 2 月から町会の方々に呼びかけて里山作りを始めました。

私たちが里山作りをはじめたのは、平成 12 年 1 月から始まった産廃の不法投棄阻止の闘争の教訓からでした。

平成 12 年 1 月から始まった産廃の不法投棄は、同年 6 月にやっと阻止することが出来ました。この 6 ヶ月間に投棄された産廃は大型ダンプ 3,000 台分という膨大なものでした。不法放棄が始まりそれを阻止するのに何ヶ月もかかり、そして後に産廃の山が残るという繰り返しにさせない取り組みこそが必要であるという認識で住民に意見が一致したのでした。古敷谷をゴミ捨て場にさせないために、荒れた谷津田を整備し、里山作りを始めました。

毎月第一土曜日を作業日と定め、産廃闘争に参加した人を中心に、20～30 名ほどのひとが、この取り組みに参加しています。

すでに 5 年が立ちましたが、一度も休むことなく続いています。今ではホテルも乱舞するようになり、6 月には“ほたる祭り”もおこなっています。地域にある富山小学校の子ども達が年 3 回も校外学習でやってきます。子ども達と豚汁や流しそうめん、焼き芋等をやって会員も共に楽しんでいます。

里山造りは大人と子ども同士の豊かな人間関係を創り出しているのです。2 村は過疎化と高齢化がすすんでいます。さらに深刻なことは人間関係の希薄化です。

活動の拠点になるよう小屋を造りました。作業が終わってから小屋でお茶を飲み、時にはそばやうどんを食べながら話し込んでいます。このような活動を通じて参加する人たちの絆が強まり豊かな人間関係が出来てきたように思います。

地域に豊かな人間関係があってこそ、地域の自然と環境を守ることが出来るのだと、今確信しています。